

私達にできること

洛南高校附属小学校

四年

小林

優莉

「くさいっ！」

下水処理場に一歩足をふみ入れたとたん、何とも言えないような異様なにおいにつつまれた。

「一日に、一億五〇〇〇のワリットルのこのくさい下水がここに集まってくるの？」  
私はそのことがとうてい信じられなかった。でも、この大量の下水をたくさんの人がみんまできれいにしてくれている。

下水処理場を見学させてもらった時に、反応タンクを見せてもらった。目に見えないほどの小さな微生物がたくさんいて、細かいよぶれを食べてくれている。小さな小さな微生物にも、ちゃんとした役割があるなんて、びっくりした。その後、最終沈殿池で残ったよ

ぶれと微生物をおとし、消毒する。その消毒された水のおいをかぐと、ぜんぜんにおいがかしなかった。あんなにくさかかった水がこん

なにきれいになるなんて、とても感激した。こんなふうには、十六日十七時間かかると教えてもらった。下水処理場で働く人達は大変なんだな、すごいな、くさいと思っただか、と思っただ。

私達が家や学校や遊びに行つた先などで手洗い、トイレ、四洗いなどで使つた水をそのまま海や川に流してしまつたらどうなるのだらう？伝染病がはやり、川や海の水がきれいになつて水の中に住んでいた生物が生きられなくなつたりする。そうなら、水の中に住んでいた生物を食べる陸の生物も生きられなくなつたりするかもしれない。

私は昔はよくホタルが飛んでいたという川に母につれていつてもらつたことがある。でも、その場所ではホタルは見つけられなかった。上流までさがしてみただけ、まったくいなかった。その後、なぜホタルがいなくなつてしまったのか、不思議に思つて祖父に聞いてみた。ホタルの幼虫はカワニナという貝

を食べている。カワニナはきれいな水でしか  
生きられないのだが、川の水がよごれたこと  
で、カワニナが減っていった。だからカワニ  
ナを食べるホタルもいなくなつたんだと教え  
てくれた。私は人間のせいで、他の生物にも  
害をあたえてしまつていて、聞いて、悲しく  
なつた。もう、生物が住めなくなるような川  
を作りたくない。そう思った。そんな川をふ  
やさないように下水処理場にいる人達は、毎  
日がんばつてくれている。

私達にもできることがあるのかと考えてみ  
た。見学の時に、台所の残り物やトイレでト  
イレットペーパー以外の紙を使うこと、洗剤  
の使いすぎ、そうじの時の泥などを雨水マス  
に入れることなどは、下水管をつまらせたり、  
さらに汚したりしていると教えてもらつた。  
家に帰つて母に聞いてみると、洗剤を矢然減  
分だけのものにしたたり、排水口に網のよう  
な物をとりつけたりしているらしい。私もこれ  
からはシャンプーや石けんを使う時など使い

すぎに注意して、できるだけ水以外のものを  
流さないように気をつけようと思う。